

Nayax、日本市場への本格参入に合わせ キャッシュレス決済端末 VPOS Media 4 Series の提供開始を発表

—アミューズメントや駐車場など、無人決済領域で強みを発揮する次世代 Android 決済端末—

世界 120 か国以上でコマース支援および決済プラットフォームを提供する Nayax Ltd.（本社：イスラエル・ヘルツリヤ、NASDAQ & TASE: NYAX、CEO : Yair Nechmad <https://www.nayax.com/> 以下、Nayax）は、本日、日本市場におけるフラッグシップ製品ラインとして、VPOS Media 4 および VPOS Media 4 Mini で構成される「VPOS Media 4 Series」の提供開始を発表しました。本製品は、QR コード決済に対応した形で本日より提供を開始し、クレジットカード（EMV）および電子マネーへの対応は 2026 年 7 月を予定しています。



（画像左から）VPOS Media 4 Mini、VPOS Media 4

日本の小売領域ではキャッシュレス化が広く進展している一方で、アミューズメント施設、コインランドリー、コインパーキング、EV 充電などに代表される無人決済領域では、導入コストの高さ、限られた設置スペース、多様な決済手段への対応の複雑さなどを背景に、キャッシュレス化が遅れてきました。加えて、過去最多を更新し続けている訪日観光客への対応や、人手不足などを背景に無人店舗フォーマットが急速に拡大する中、柔軟で省スペース、かつ複数決済手段に対応するキャッシュレスソリューションの必要性がこれまで以上に高まっています。

VPOS Media 4 および VPOS Media 4 Mini は、Nayax がこれまでに提供してきた中で最も高性能な決済プラットフォームであり、日本市場に最適な製品です。両製品は Android を搭載し、API ファーストのアーキテクチャにより、事業者が自社アプリケーションを開発し、容易に連携・統合できるよう設計されています。VPOS Media 4 は、最も幅広い決済手段およびプロトコルに対応するフル機能端末で、世界的な自動販売機標準である MDB に加え、日本市場向けの JVMA にも対応します。VPOS Media 4 Mini は、IP55（防塵・防水）および IK08（耐衝撃）の堅牢な筐体性能を維持しつつ、より小型のフォームファクターを採用し、EV 充電器、コインランドリー、コインパーキング、アーケード筐体など、設置スペースが限られる環境での導入を想定しています。

また両製品は、決済受付にとどまらず、Nayax のエコシステムと連携します。Nayax Core によりリアルタイムの売上分析、遠隔管理、オペレーション全体の可視化を実現し、専用アプリケーションの MoMa によってモバイル端末からの操作・管理を可能にすることで、無人決済オペレーションのスマート化・省力化を支援します。さらに、日本独自の決済規格として急速に標準化が進む「Customer Presented Mode (CPM) QR」にも対応しており、クレジットカード



ド (EMV) および電子マネーの認証取得はいずれも 2026 年 7 月を予定しています。

VPOS Media 4 Series の主な特長は以下のとおりです。

- 幅広い決済手段に対応：クレジット／デビットカード（VPOS Media 4 は挿入・タッチ決済・磁気スワイプに対応）、電子マネー、QR コード、モバイルウォレットに対応。50 以上の通貨で 80 以上の決済手段をサポート
- 多様な接続オプション：4G／Wi-Fi／Ethernet をサポート
- Multi-Price Multi-Machine 管理：単一のダッシュボードから複数機器の価格を個別に設定でき、拠点ごとに柔軟な価格戦略の運用が可能
- 高輝度 4 インチカラータッチスクリーン、耐破壊性に配慮した Dragontrail ガラス採用
- 過酷な環境向け設計：両製品とも IP55（防塵・防水）および IK08（耐衝撃）。直射日光下や極端な環境条件下での稼働を想定
- Open API による既存システム連携：各種 API や SQS など、多様なインターフェースに対応
- 業界プロトコル互換：VPOS Media 4 は MDB（世界標準）および JVMA（日本）に対応。VPOS Media 4 Mini は、EV 充電器、コインパーキング、ランドリー機器、アーケードゲーム向けの Pulse／Marshall／Cloud プロトコルに対応。両製品とも Android および Open API 連携に対応

Nayax の CCO（チーフ・コマーシャル・オフィサー）であるオーレン・テッパーは次のように述べています。

「日本は、Nayax にとって世界的にも極めて戦略的重要性の高い市場です。VPOS Media 4 Series は当社史上最も高性能な決済プラットフォームであり、世界トップクラスのアミューズメントおよび無人決済インフラ、過去最高水準の訪日需要、そして加速するキャッシュレス化により特徴づけられる日本市場に投入することは自然な選択です。当社は、日本の無人決済業界における“選ばれる決済プラットフォーム”となることを目指しており、本ローンはその道における大きな一歩です。」

Nayax の日本法人である NAYAX 株式会社ゼネラルマネージャーの依田 寛史は次のように述べています。

「日本の無人決済領域はいま、大きな転換点を迎えています。アミューズメント、ランドリー、駐車場、EV 充電などをはじめとする各分野の事業者は、導入が容易で、単なる海外製品の転用ではなく“日本のために作られた”キャッシュレスソリューションを求めています。VPOS Media 4 Series はまさにそのニーズを念頭に設計されており、日本の業界プロトコルへのシームレスな互換性、国内で実際に使われる決済手段への対応、そしてクレジットカード認証と CPM QR を含むロードマップによって、この市場が向かう先を反映しています。」

VPOS Media 4 Series の初期の展開先は、アミューズメント施設、コインランドリー、コインパーキングを想定しており、その後 EV 充電を含む他の無人領域へ拡大する計画です。提供価格については、事業規模に応じた柔軟な料金体系を用意し、中小事業者から大手チェーン事業者まで幅広く採用いただける設計としています。すでに導入が決まっている事業者には、日本における Nayax のローンチパートナー（[2025 年 12 月発表](#)）である株式会社シルクハットエンターテインメントなどが含まれます。

今後 Nayax は、日本の機器メーカー、事業者、金融機関とのパートナーシップを深化させるとともに、データドリブンな分析、ロイヤルティプログラム、遠隔管理など、付加価値機能を拡充し、日本におけるキャッシュレス・エコシステムの発展と事業者の新たな収益機会創出を支援していきます。



■ Nayax について

Nayax は、加盟店の事業拡大を支援するグローバルなコマース支援、決済およびロイヤルティプラットフォームです。Nayax は、地域特性に最適化したキャッシュレス決済の受付、管理スイート、ロイヤルティツールを含む包括的なソリューションを提供し、加盟店が「いつでも・どこでも」取引を行える環境を実現します。無人リテール領域における基盤とグローバルなリーダーシップのもと、Nayax は複数チャネルにわたる顧客の成長にフォーカスした包括的ソリューションへと進化してきました。2026 年 3 月 31 日時点で、Nayax は世界 13 拠点に約 1,250 名の従業員を擁し、80 以上の加盟店アクワイアラーとの接続および多様な決済手段の統合を行っており、決済ファシリテーターとしてグローバルに認知されています。Nayax のミッションは、顧客の収益機会とオペレーション効率を、効果的かつシンプルに高めることです。詳細は www.nayax.com/ja/ をご覧ください。

将来見通しに関する記述

本プレスリリースには、将来見通しに関する記述が含まれています。これらは、当社経営陣の信念および仮定、ならびに現時点で入手可能な情報に基づくものであり、さまざまなリスクおよび不確実性を伴います。そのため、実際の結果は将来見通しに関する記述で明示または示唆された内容と大きく異なる可能性があります。リスク要因には、市場環境、消費者動向、インフレ・金利・為替変動、人材の確保・維持、原材料・労務・流通などのコスト変動、成長戦略の実行、規制および税務上の変更、イスラエルにおける経済・政治・社会情勢（2023 年 10 月 7 日に始まった戦争を含む）、広告・販促活動や新製品開発の成否、競合状況などが含まれますが、これらに限定されません。詳細は、当社が 2025 年 3 月 4 日に SEC に提出した Form 20-F（アニュアルレポート）の「Risk Factors」をご参照ください。当社は、法令で求められる場合を除き、将来見通しに関する記述を更新または改訂する義務を負いません。

■ 本件に関するお問い合わせ先

Nayax 広報事務局（共同ピーアール株式会社）

担当:小林、山岡、大塚 E-mail : Nayax-pr@kyodo-pr.co.jp